



2009(平成 21)年 5 月 15 日

各 位

東燃ゼネラル石油株式会社  
東京都港区港南一丁目 8 番 15 号  
代表取締役社長 鈴木 一夫  
(コード番号: 東証第一部 5012)  
問合せ先:  
エクソンモービル有限会社  
広報渉外部 田所 加奈  
Tel: 03-6713-4378

## 東燃ゼネラル石油(株)平成 21 年 12 月期第 1 四半期連結決算に関するお知らせ

東燃ゼネラル石油株式会社は、平成 21 年 12 月期第 1 四半期(1-3 月)の連結決算を下記の通りお知らせ致します。

記

### 1. 平成 21 年 12 月期第 1 四半期の連結業績

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	純利益
平成 21 年 12 月期第 1 四半期(A)	484,223	13,052	12,712	7,656
平成 20 年 12 月期第 1 四半期(B)	877,457	62,743	68,835	40,647
増減額 (A-B)	△393,234	△49,690	△56,123	△32,990
増減率	△44.8%	△79.2%	△81.5%	△81.2%

#### **連結売上高**

連結売上高は、原油価格の下落を反映した製品価格の低下に伴い、前年同期比 3,932 億 34 百万円減の 4,842 億 23 百万円となりました。石油製品の需要が低迷する中、国内販売数量は減少、輸出数量は微増となりました。

#### **連結営業利益**

連結営業利益は、130億52百万円(前年同期比496億90百万円減)となりました。主な要因は以下の通りです。

(1) 石油製品事業の収益動向

石油製品事業の営業損益は、153億円の利益(前年同期比380億円減)となりました。

前年同期の営業利益には、原油在庫等の一時的な減少に伴う在庫評価等の影響による利益約523億円が含まれています。一方、今期の営業利益には、同様の影響による評価性の利益約18億円が含まれています。今期は、石油製品マージンも改善し、これらの在庫評価等の影響を除いた場合の実質営業利益は、前年同期比125億円増の135億円となりました。

(2) 石油化学製品事業の収益動向

石油化学製品事業の営業損益は、23億円の損失(前年同期比116億円減)となりました。昨年後半からの基礎石油化学品の需要の減少が主な要因です。

**経常利益**

営業外損益は、主として、2008年に見られたような大きな為替差益が見られなかった為、前年同期比64億円減の3億40百万円の損失となりました。この結果、連結経常利益は、127億12百万円(前年同期比561億23百万円減)にとどまりました。

**純利益**

四半期純利益は、76億56百万円(前年同期比329億90百万円減)となりました。

**2. 平成21年12月期 通期連結業績予想の修正**

(単位: 百万円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2,300,000	15,000	16,000	9,000

平成21年12月期の業績予想は、第2四半期累計期間(従来の中間期)、通期ともに平成21年2月13日に発表した内容から変更はありません。

また、1株あたり年間38円の通期配当見通しについても、平成21年2月13日の発表から変更ありません。

以上